

□ 主な内容

【交通政策基本計画が策定されました！】

我が国の交通政策の長期的な方向性を踏まえつつ、政府が今後講ずべき交通に関する施策について定めた交通政策基本計画が 2 月 13 日に閣議決定されました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000073.html

【第 8 回 EST 普及推進フォーラムの参加者募集中！】

EST 普及推進委員会では、明日 (2 月 26 日 (木)) に、第 8 回 EST 普及推進フォーラム「2020 年に向けた低炭素交通システムを考える」を開催します。ご参加期待しています。

<http://www.estfukyu.jp/forum8.html>

□ 目次

1. 寄稿 (1) 「環境的に持続可能な交通を目指して」 (第 103 回)

● 「デマンド交通の計画は本当に難しい」

【岡山大学大学院環境生命科学研究科 准教授 橋本 成仁】

2. 寄稿 (2) 「地方から全国に向けた情報発信！」 (第 103 回)

● 「藤沢市低炭素社会の実現に向けた交通体系推進プロジェクト」

【藤沢市計画建築部都市計画課 主査 香川 宗宣】

3. ニュース／トピック

● 「交通政策基本計画」の策定について【国土交通省】

● 平成 26 年度「鉄道利用マナーUP キャンペーン」～「ひと声マナー」はじめよう。～について【国土交通省】

● 「中小トラック事業者の燃料費対策」(環境対応型ディーゼルトラック及び自家用燃料供給施設の導入に対する補助)の実施について【国土交通省】

● 「関東運輸局管内超小型モビリティ導入事例集」と「超小型モビリティ導入の手引き」の作成について【関東運輸局】

● 近畿初！環境に優しい電気バスが京都市内を走ります！【近畿運輸局】

● バス情報オープンデータ化パイロット事業の実施について【埼玉県】

● 「二輪モビリティ向けワイヤレス給電システム」の電動アシスト自転車レンタサイクル実証実験実施について【さいたま市】

● デマンド交通 (くきまる) に関するアンケート調査実施結果について【久喜市】

- 日本初の廃棄物発電を活用した「エネルギー循環型ごみ収集システムの実証試験」の検討について【川崎市、JFE エンジニアリング株式会社】
- ベイバイク、3月1日に自転車を一新！～スマホ等で簡単登録、電動アシストでラクラク移動～【横浜市】
- モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2014授賞者決定について【一般社団法人カーフリーデージャパン】
- 走行距離に応じた自転車通勤手当の試験運用結果を公表【フランス環境エネルギー管理庁】

4. イベント情報

- 第8回 EST 普及推進フォーラム「2020年に向けた低炭素交通システムを考える」【2015/2/26】
- 環境・交通・まちづくり市民フォーラム 2015「持続可能な、まちづくりへ『公共交通+物流』未来への展望」
- 交通・観光カーボンオフセット支援システム説明会【2015/3/6】
- 第20回バリアフリー推進ワークショップ「福祉機器からの展開～車いすからパーソナルモビリティ～」【2015/3/6】
- 平成26年度まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業 ワークショップ【2015/3/18】

5. その他

- EST パートナースHIP会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 平成27年度の支援自治体、支援校を募集しています
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 103 回)

●「デマンド交通の計画は本当に難しい」

【岡山大学大学院環境生命科学研究科 准教授 橋本 成仁】

地域公共交通の確保は自治体の重要な役割となっており、特に、交通空白地域の解消は多くの自治体に共通した悩みとなっています。

地方都市周辺部や中山間地域など過疎地域では、居住人口密度が低い地域が広範に広がっており、このような地域で空白地域の解消策として定時定路線型のコミュニティバスなどを運行することは効率性の面から困難で、デマンド交通の導入が多くの地域で行われています。

デマンド交通は、各地で様々な取り組みがなされていますが、その多くは、ドアツードアに近い形で、タクシーよりも安価な料金設定でサービスが提供されています。

一見、計画が簡単(サービス範囲を指定してしまえば、空白地域が簡単に消えてしまう!)で、利用者の評価が高い(自宅のすぐ近くまで安い料金で来てくれる)ため、人口密度の低い地域の生活交通の救世主のように扱われています。

一方で、デマンド交通は、タクシー事業者の提供しているサービスとかなり重なってしまうため、安易に導入すると、タクシー事業者に大きな打撃を与えてしまうことにもなります。

そもそも過疎地域のタクシー事業者は自家用車の利用が前提となっている地域で苦しい経営状態となっていることが多く、公共によるデマンド交通の導入は死活問題となりがちです。また、その担い手(運行者)は、予約に応じてドアツードアのサービスを提供するという特性上、タクシー事業者が適任だと考えられますが、デマンド交通導入によりタクシー事業者の経営が傾いてしまうと、デマンド交通の担い手を失うことにも直結します。

地域のタクシー会社を失うということは、行政の運行する公共交通サービスの終了した時間帯の移動手段が自家用車以外になくなることを意味し、地域にとって極めて大きな課題となります。過疎地域の中には、すでにタクシー会社が存在しない地域も現れており、そのような地域では、自治体がデマンド交通を導入したくても簡単に導入できない状況にも陥っています。タクシー会社の消滅は、このような地域では現実問題となっているのです。

このように考えてみると、デマンド交通の計画は、地域のタクシー会社の存続可能性とデマンド交通サービスの提供をいかに両立させるのかということが要点となり、そんなに単純なものではないことが分かります。

デマンド交通に関しては、効率的な配車システムなどの研究が精力的に進められています。その計画論についてもしっかりと構築しておく必要があるようです。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 103 回)

●「藤沢市低炭素社会の実現に向けた交通体系推進プロジェクト」

【藤沢市計画建築部都市計画課 主査 香川 宗宣】

藤沢市は、東京都心部から 50km 圏域に位置する神奈川県湘南地域の人口約 42 万人の都市です。

市内を運行する主な公共交通としては、鉄軌道系事業者は 6 社、バス事業者は 3 社となっており、コミュニティバスを含め、市営の公共交通を持たないなかで、低炭素社会の実現に向けた交通体系の推進を進めるため、バス、自転車利用促進を中心に複数の施策を展開してきています。その一部のバス関連の施策について、紹介します。

バス関連の施策については、バス交通の新たな取り組みとして「連節バス」の導入、市民・バス事業者・行政の連携するバス施策となる「地域提案型バス」の拡充を進めてきました。また、市内に事業所を抱える企業につきましても、環境に配慮した通勤等で、公共交通利用促進等の取り組みも進めています。

バス交通の新たな取り組みとしての「連節バス」は、2005 年 3 月に導入されています。導入を進めた背景には、1999 年に相鉄いずみ野線、横浜市営地下鉄が湘南台駅に乗り入れるなかで、狭隘な湘南台駅西口広場に滞留するバス待ちの乗客が大幅に増えたため、駅前広場の利用に支障をきたしていたことから、「新たな公共交通導入検討委員会」を立ち上げ、検討を進め、導入に至ったものです。改善には輸送力の拡大することが必要で単体の輸送量を拡大するための連節バス、速達性を改善するための PTPS を組合せた対策を行いました。効果は、湘南台駅西口から慶応大学に至る区間での輸送力の改善に伴い、湘南台駅西口の滞留人員総数が 40%以上減少し、速達性が改善したことにより、朝のラッシュ時間帯の所要時間について 2 分 30 秒短縮が図られました。

「地域提案型バス」は、バスの利用環境の改善が求められる地域において、市民が周辺住民の意見を取りまとめ、行政は市民とバス事業者を仲介する立場で情報提供等を行い、バス事業者との調整を行いながら、導入に向けた初期費用の一部を負担するなどして路線バスの導入を進めるものです。このことは、バス停、ルート、運行に関する苦情等のバス事業者の路線導入リスクの軽減を図る一方、市民同士がバス路線導入に向けて意見集約を図ることで、情報共有や利用促進につながると考えます。この手法での路線は、2014 年 8 月現在、13 路線に及び、平日 1 日あたりの乗降客数は、1 万人を上回るものとなっております。

また、市内の企業においても公共交通の利用を促進するための協定の締結や路線バス導入や、利用促進に向けた意見照会など行うことも行っています。そのうち、市内に工場を持つ、いすゞ自動車では、従業員の通勤における公共交通の利用に加え、ミドリムシ由来で炭素循環が可能なバイオディーゼル燃料 DeuSEL(デューゼル=DIESEL+euglena)を開

発したユーグレナ社と提携し、DeuSEL で走るシャトルバスを湘南台駅からいすゞ藤沢工場まで定期的に運行するなど、自主的な取り組みも行われています。

藤沢市では、これらの多様な主体との連携、協働による低炭素社会の実現に向けた交通体系の推進が重要と考えており、昨年度、「藤沢市交通マスタープラン」及び「ふじさわサイクルプラン」を策定し、交通環境の改善を進める目標を定めました。また、2014 年からは、「交通マスタープラン」に掲げる施策を効率的かつ効果的に展開していくため、都市・地域総合交通戦略及び地域公共交通活性化再生法に基づく「藤沢市交通アクションプラン」の策定を進めております。

3. ニュース／トピック

●「交通政策基本計画」の策定について【国土交通省】

交通政策基本法(平成 25 年法律第 92 号)に基づき、2 月 13 日に初となる交通政策基本計画が閣議決定されました。本計画は、我が国の交通政策の長期的な方向性を踏まえつつ、政府が今後講ずべき交通に関する施策について定めています。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000073.html

●平成 26 年度「鉄道利用マナーUP キャンペーン」～「ひと声マナー」はじめよう。～について【国土交通省】

国土交通省では、平成 23 年度から鉄道事業者等と連携した「鉄道利用マナーUP キャンペーン」を実施しています。今年度も、2 月から 4 月までの 3 カ月間、各鉄道駅における啓発ポスターの掲示等により、本キャンペーンを展開します。

http://www.mlit.go.jp/report/press/tetsudo02_hh_000052.html

●「中小トラック事業者の燃料費対策」(環境対応型ディーゼルトラック及び自家用燃料供給施設の導入に対する補助)の実施について【国土交通省】

国土交通省では、平成 27 年 1 月 9 日に「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」が閣議決定され、2 月 3 日に成立した平成 26 年度補正予算において、中小トラック事業者の燃料費対策として、環境対応型ディーゼルトラック及び自家用燃料供給施設の導入について、支援を行うこととしています。現在予定している補助制度の概要等が公表されました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha04_hh_000088.html

●「関東運輸局管内超小型モビリティ導入事例集」と「超小型モビリティ導入の手引き」の作成について【関東運輸局】

関東運輸局では、平成 25 年 1 月に超小型モビリティの公道走行を可能とする基準緩和認定制度が創設されたことから、この認定制度を活用して、これまでに 10 カ所 113 台の超小型モビリティが運行されており、こうした事例について広く紹介することで、地方公共団体等における今後の導入を後押しするため、全国で初めて「関東運輸局管内超小型モビリティ導入事例集」と「超小型モビリティ導入の手引き」を作成しました。

http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/press/date/1502/ct_p150210.pdf

●近畿初！環境に優しい電気バスが京都市内を走ります！【近畿運輸局】

国土交通省では、環境性能に特に優れた電気自動車の普及を図るため、バス、タクシー及びトラック事業者が電気自動車の導入を図りやすくするため、その支援として、「電気自動車による地域交通グリーン化事業」を実施しています。この度、京都市内で路線バスを運

行する路線バス事業者による電気バスの導入計画が、同事業の対象案件に選定され、2月23日より同社の路線に電気バスを使用して運行することとなりました。

<http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/press/files/1424311005.pdf>

●バス情報オープンデータ化パイロット事業の実施について【埼玉県】

埼玉県では、官民連携で進めている「出歩きやすいまちづくり事業」で、県民にとって利用しやすいバス環境を整えるために、バス情報の「オープンデータ化」を推進しています。既存の「バスロケシステム」のウェブサイトなどは、バス事業者ごとに異なっており、利用者にとって使いづらいサービスとなっているため、利用者がどの「バスロケシステム」でも簡単に利用できるように、バス情報オープンデータ化パイロット事業を実施します。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0001/news/page/150216-07.html>

●「二輪モビリティ向けワイヤレス給電システム」の電動アシスト自転車レンタサイクル実証実験実施について【さいたま市】

さいたま市では、さいたま市環境技術創出支援補助金補助事業として実証に取り組んでいる「二輪モビリティ向けワイヤレス充電装置を活用したコミュニティサイクル技術実証事業」について、電動アシスト自転車レンタサイクルの実証実験を実施しています。

http://www.city.saitama.jp/006/014/008/003/003/011/p040408_d/fil/kisyahappyou.pdf

●デマンド交通(くきまる)に関するアンケート調査実施結果について【久喜市】

久喜市では、平成25年10月からデマンド交通を運行しており、運行開始から1年が経過したことから、さらにより良いものとするため、アンケート調査を実施しました。このたび、集計結果のとりまとめが公表されました。

http://www.city.kuki.lg.jp/kurashi/traffic-safety/demand/demand_enquete.html

●日本初の廃棄物発電を活用した「エネルギー循環型ごみ収集システムの実証試験」の検討について【川崎市、JFEエンジニアリング株式会社】

川崎市とJFEエンジニアリング株式会社は、廃棄物発電を活用した「エネルギー循環型ごみ収集システムの実証試験」の検討に関する覚書を締結しました。ごみ焼却処理施設で発電した電力を活用し、「電池充電・備蓄・交換システム」を利用した電気自動車システムを搭載するEVごみ収集車による日本初の「ごみ収集システムの実証試験」に向けて検討を開始します。

<http://www.city.kawasaki.jp/templates/press/300/0000065114.html>

<http://www.jfe-eng.co.jp/news/2015/20150210.html>

●ベイバイク、3月1日に自転車を一新！～スマホ等で簡単登録、電動アシストでラクラク移動～【横浜市】

横浜市では、平成26年4月から株式会社NTTドコモと実施している「横浜都心部コミュニティサイクル事業 baybike」に、平成27年3月1日から、利用者の利便性・快適性の向上を目的に新システムを導入し、現在使用している自転車400台をすべて電動アシスト機能付きの新しい自転車に入れ替えます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/toshiko/cc/kisha20150202.pdf>

●モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2014授賞者決定について【一般社団法人カーフリーデージャパン】

一般社団法人カーフリーデージャパンでは、モビリティウィーク&カーフリーデー2014において、移動に関する様々な問題を考える機会を市民へ提供し、新しい都市交通政策の展開を進展させるため、「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2014」として、まちづくり貢献賞、イベント・プロジェクト賞、市民向けアピール賞、カーフリーデーベストショット賞を決定しました。

<http://blog.goo.ne.jp/cfdjapan/e/32f9a125a71ecd1ecc11d3509a24ded3>

●走行距離に応じた自転車通勤手当の試験運用結果を公表【フランス環境エネルギー管理庁】

フランス環境エネルギー管理庁(ADEME)では、2014年6月1日から11月1日まで実施した、走行距離に応じた自転車通勤手当の試験運用結果を公表しました。これは、政府が「活動的移動方法(mobilité active)の行動計画」で示した25項目の対策の一つとして、参加企業が従業員の自転車走行1キロメートル当たり25セントの手当を支給する試みで、18企業8,000人以上が参加しました。

<http://www.presse.ademe.fr/2015/01/experimentation-indemnite-kilometrique-velo-les-premiers-resultats.html>

4. イベント情報

●第8回 EST 普及推進フォーラム「2020年に向けた低炭素交通システムを考える」

日時:2015年2月26日(木)14:00~17:40

場所:ルポール麴町2階「ロイヤルクリスタル」

主催:EST 普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/forum8.html>

●環境・交通・まちづくり市民フォーラム 2015「持続可能な、まちづくりへ『公共交通+物流』未来への展望」

日時:2015年3月1日(日)13:30~16:30

場所:主婦会館プラザエフ9階スズラン

主催：環境・交通・まちづくり市民フォーラム実行委員会、東京あおぞら連絡会

http://ecc.jp.net/saito/Information_42.html

●交通・観光カーボンオフセット支援システム説明会

日時：2015年3月6日(金)13:30～16:00

場所：TKP 名古屋駅前カンファレンスセンター「カンファレンスルーム 6C」

主催：エコモ財団

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/data/setumeikai_15.3.6.pdf

●第20回バリアフリー推進ワークショップ「福祉機器からの展開～車いすからパーソナルモビリティ～」

日時：2015年3月6日(金)18:00～20:00

場所：アルカディア市ヶ谷私学会館 6階 霧島

主催：エコモ財団

<http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/benkyo/20150306.html>

●平成26年度まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業 ワークショップ

日時：2015年3月18日(水)13:00～17:00

場所：ベルサール三田

主催：株式会社日本総合研究所

http://www.jri.co.jp/seminar/150318_440/detail/

5. その他

●EST パートナーシップ会員制度に参加する団体を募集しています！

2013年7月16日から募集を開始し、38団体が参加しています。

会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。

http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html

●EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！

<https://twitter.com/officeEST>

●交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

平成27年度の支援自治体、支援校を募集しています

http://www.mm-education.jp/jititai_sien.html

http://www.mm-education.jp/gakkou_sien.html

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp/>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp (担当: 熊井)

=====

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>